

ふじのくに

グローバル人材

育成事業

成果報告

2019年度



ふじのくにグローバル人材育成基金で
若者や教職員の「海外での学び」を応援しています



静岡県教育委員会



ふじのくにグローバル人材育成基金の概要

グローバル化が急速に進展する中で、高校生をはじめとする若者の海外留学や研修等を通じた、「世界に目を向けながら地域社会の発展に貢献できる」人材の育成が求められています。

また、子どもたちの海外に対する知的好奇心を養うためには、国際感覚豊かな教職員による教育も重要です。

静岡県教育委員会では、2016年4月に「ふじのくにグローバル人材育成基金」を創設し、一人でも多くの高校生や教職員の「海外で学びたい」という希望を実現させるため支援しています。

国際感覚豊かな人材の育成

ものづくり県の時代を担う人材の育成

海外体験（留学）

高校生が意欲を持って、自ら進んで参加する留学の経費を支援します



海外インターンシップ

県内企業の海外事業所等における就労体験事業を支援します



グローバルハイスクール

特色のある先進的なグローバル教育を展開する指定校を支援します

教職員の海外研修

海外の教育機関等において、指導力や専門性を向上させるための研究に取組み教職員を支援します

ものづくり世界大会

ものづくり等の世界大会に参加する高校生を支援します



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



Sustainable Development Goals (SDGs) とは、「誰一人取り残さない」社会の実現を目指す、国際社会全体の開発目標です。経済・社会・環境をめぐる課題について、17の目標と169のターゲットが示されています。

県教育委員会の取組は、主に目標4「すべての人々への包括的かつ公平な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」に該当しています。

事業内容

2016年度から2020年度までの5年間で約800人の高校生及び教職員の海外留学等を支援します。

年度	2016実績	2017実績	2018実績	2019実績	2020計画
派遣人数	97人	230人	222人	154人	81人
事業費	18,879千円	37,993千円	36,636千円	36,601千円	40,000千円

区分		内容	2019実績	2020計画 (当初予定)
高校生の 海外体験 促進 (留学)	長期留学	海外の教育機関等で語学などの専門分野の留学を体験 【期間】1年程度 【上限】30万円	5人	募集中止 (5人)
	県内大学 と連携し た留学	県内大学と連携して、大学が実施する各種留学・語学研修等に参加 (2019留学先) カルフォルニア州立大学サクラメント校、 ジョージタウン大学 【期間】1か月程度未満 【上限】30万円	29人 +引率3人	募集中止 (30人+ 引率3人)
	短期留学	学校、市町、NPO等の民間が実施する語学研修、ボランティア活動等に参加 【期間】1か月程度未満 【上限】30万円	31人	募集中止 (24人)
教職員の海外研修		教職員が海外の教育機関等で専門分野や現代的な課題の研究等を実施 【期間】1か月程度未満 【上限】50万円	16人	募集中止 (10人)
グローバル ハイスクール		学校の特色を生かした課題研究を中心に、海外の大学や研修機関等と連携してフィールドワーク等を実施する学校を指定 【指定期間】2年程度 【上限】300万円	23人 +引率3人 浜松開誠館	3校81人 ※海外派遣無
海外 インターンシップ		○県内企業の海外工場における就労体験等を実施 (2019研修先：6社) 天野回漕店(中国)、ヤマハ発動機(台湾)、 うなぎいも協同組合(台湾)、 臼井国際産業(タイ)、ジヤトコ(タイ)、 河合楽器製作所(インドネシア) 【対象】専門高校等の生徒 【期間】国内(2日間) 海外就労体験(3泊4日) 【県実施】全額県負担	38人 +引率6人	募集中止 (36人+ 引率6人)
ものづくり等の 世界大会		ロボット競技等のものづくりに関する世界大会へ参加 【対象】専門高校等の生徒 【上限】30万円(国内開催は10万円)	—	募集中止 (5人)
計			154人	81人 (200人)

※ 2020年度は新型コロナウイルス感染症対策として、4月に募集開始を予定していた生徒及び教職員の海外派遣を伴う事業は、原則中止となりました。

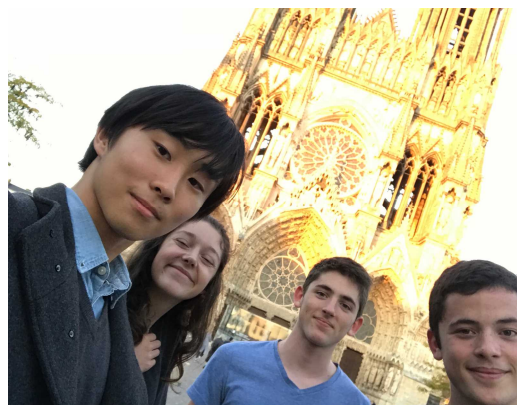
長期留学

静岡県立浜松西高等学校 2年
川崎 健士朗



留学先：フランス

平成30年9月～
令和元年7月



目的・応募理由

ホストファミリーの家庭に滞在しながら、地域のホストスクールに留学し、フランスの生活や文化、語学について深く体験したいと思いました。そして、将来的にはこの留学で学んだことを仕事に活かしたり、中高生に留学の素晴らしさなどを伝えたりしたいと考え、応募しました。

研修内容等

フランスでの生活は、食生活、家族観、学校生活など、日本では決して学ぶことのできないことを学び、私の視野を何倍にも広げてくれました。

カルチャーショックの一つはビズ (bisous) です。フランスにおける日常的な挨拶で、最初のうちは慣れが必要でした。

また、メリハリのあるフランス流のバカンスには衝撃を受けました。日々の仕事や学校から離れ、家族や友人と大切なひと時を過ごし、思い切り休んでバカンスが終わるとまた仕事と学校に集中するのです。フランスならではの休暇とその考え方を学ぶことができ、非常に興味深かったです。

学校生活で驚いたことは、週に一度、放課後に「哲学の集会」が開かれ、哲学の先生と数十人の高校生が、政治から外国の風土まで、哲学的な観点から自由に議論をする姿は非常に新鮮でした。また、フランス人は頻りにデモを行い、高校生も授業を欠席して参加していました。フランス人の意見の発信力は日本とは全く異なっていると感じました。



感想等

フランスでの留学は刺激と学びに満ちた10か月間でした。素晴らしいホストファミリーとホストスクール、友人に囲まれて本当に良かったと感じています。今後、この留学は必ず自分の将来設計に役立つだろうと信じています。

この経験を活かし、更に友人や後輩たちにも海外に出ることを勧めたいと思うとともに、この10か月間を胸に刻み、今後も目標に向かって頑張りたいと思います。

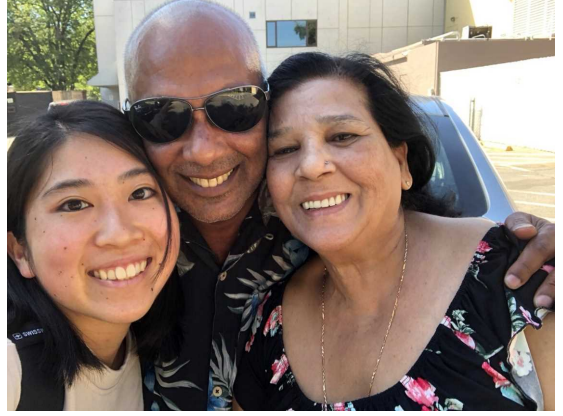
県内大学と連携した留学（サクラメント校）

静岡県立三島北高等学校 2年
石田 奈々実



令和元年8月4日
～8月18日

留学先：アメリカ合衆国



目的・応募理由

異文化を体験して視野を広げたい、ネイティブな英語に触れることで高度なコミュニケーション能力を身に付けたい、私は弓道部に所属しているので日本の伝統スポーツの魅力を伝え、地元の静岡県について紹介したいと思い、応募しました。

留学生と交流することはできても、実際に現地に行ってみないと感じるできないものもあります。高校生のうちに海外に留学できるこのチャンスをつかんで、自分の視野を広げるための第一歩にしたいと思いました。

研修内容等

午前中は大学内でアメリカの文化と言語をテーマにした教材を用い、話し合いなどの活動が多い授業でした。

午後からは、アクティビティでいろいろなことを体験し、アメリカの文化に触れる機会が多くあり、日本との文化の違いを感じながら楽しく学ぶことができました。



私は初めての海外経験であらゆることに不安がありましたが、ホストファミリーは留学生の受け入れに慣れていることもあり、家族のように接してくれました。毎日たくさん話す努力をし、英字新聞を使い、発音や意味を教えてもらいながら英語の勉強をしました。2週間の短い期間でしたが、ネイティブな発音にも慣れ、自分の言いたいことを言えるようになりました。ホストファミリーとは今でもメールで連絡を取り合っています。

感想等

アメリカは多文化社会で、むしろ純粋なアメリカ人はほとんどいないと聞きました。私のホストファミリー宅は基本的に毎日学生がホームステイをしているそうです。「私たちも生徒から学ぶことがたくさんある。新しい文化や言語を知ることには抵抗はなく、むしろ知ることには私たちにもプラスになる。」と言っていたホストファーザーの考え方がとても大事だと思います。

日本は島国ということもあってか、新しい文化を積極的に受け入れたいと思う人が少ないのが現状だと思います。今回の経験をいろいろな人に発信して、今後の日本、静岡県のグローバル化に貢献していきたいと思っています。

このような素晴らしい経験をこれからの進路に活かして、日々精進していきたいと思っています。

県内大学と連携した留学（ジョージタウン大学）

静岡県立浜松北高等学校 2年
桑原 唯歩



令和元年7月21日
～8月4日

留学先：アメリカ合衆国



目的・応募理由

幼い頃から宇宙に興味があり、将来は世界の宇宙開発をリードするアメリカ合衆国で働き、宇宙開発に関わる仕事や研究に取り組みたいと思うようになりました。

海外で働くことにあたって必要である、英語でコミュニケーションを取る力と対人関係を磨く力を身に付け、様々な教養を高めたいと思い、応募しました。

研修内容等

大学では、午前中に授業を行い、午後や週末は他のプログラムの体験や、施設訪問、スポーツ観戦等を行いました。

最初は間違えることが怖くて話すことのためにめらいもありましたが、勇気を出して会話するたびに、自分の成長を感じることができました。



留学生との交流では、一つの話題で盛り上がったり、それぞれの国について話したりして気持ちが通じ合った気がしました。世界の多様性を知ると同時に、たとえ国や民族が違っていても思いを伝え合うことはできると実感しました。

感想等

海外渡航が初めてであった私にとってアメリカは未知の世界でしたが、すぐに自由で明るい雰囲気が好きになっていきました。また、アメリカ人は自分の意見をはっきりと持ち、初対面でもお互いの意見をしっかりと伝え合う光景を見て、国内の政治や経済に高い関心を持ち、見知らぬ人とも自分の考えを共有しているアメリカ人の人柄を実感しました。

この研修で自分のことや将来について話す機会を多く持ち、出会った人たちに夢を応援してもらったり、仲間の目標を聞いて考えたりすることで、自分を見直すきっかけになり、自分に自信を持つことができました。

また、以前から興味を持っていた環境問題や宇宙開発について、アメリカの取組や他の人の考えを知ることができ、ものの見方が広がったと感じています。

このような素晴らしい出会いと経験に感謝し、研修で得た広い視野を持って、これから出会う様々な人と関わっていきたいです。そして更に自分の可能性を広げ、自分自身の夢に向かって努力していきたいと思います。

海外インターンシップ

静岡県立掛川工業高等学校 2年
後藤 匠海



研修先：インドネシア

令和元年8月20日
～8月23日



目的・応募理由

静岡県内の企業が海外とどのように関わっているのか、どのように貢献しているのかを実際に現地に行き、国内工場と海外工場との相違点など深く学びたいと考えました。

工業高校生として、将来、県内の企業に就職する上で知っておかなければならないと考えるとともに、この研修で学んだことを学校全体に広めていきたいと思いました。

研修内容等

国内研修では、河合楽器製作所でピアノ等の鍵盤楽器の概要や工程について学びました。調律など人の感覚が必要となる作業では、ベテランと若手の方が一緒に作業する姿を見て、このように技術を継承していくことで、技術が尽きることがないのだと感じました。



海外研修は、PT.Kawai Indonesiaの工場で行い、インドネシアの情報や文化、工場の概要説明後に、工場見学やたくさんの工程の実習を体験しました。

従業員の方がジェスチャーをして作業の方法を伝えてくれ、自分の意思を伝える方法は言葉だけではないことを学ぶことができました。また、従業員の心のこもった挨拶など、私の学校生活にも生かさなければならぬと感じました。

一方で、日本では機械で行っていた工程をインドネシアでは手作業の部分もあり、日本と同じ設備が整えば、よりインドネシアの発展につながると思いました。

感想等

県内企業が国内外で活躍していることを知ることができ、とても誇りに思いました。ピアノづくりの工程では、人の手が加わる工程が多いことを知り、また職人と呼ばれる方々の技術を見ることができ感動しました。日本の職人の技術が伝承され、インドネシア人の職人がいたことにも驚きました。

皆様のおかげで素晴らしい経験をさせていただくことができました。この研修で海外に対する不安や恐怖心がなくなり、またチャンスがあれば海外に行って活躍したいと思うようになりました。

教職員海外研修（小学校英語対応研修）

吉田町立住吉小学校教諭
駒形 宗吉郎



令和元年7月28日
～8月6日

研修先：フィリピン



研修実施の目的

小学校教員が受けてきた英語教育は「読む」に偏重していたため、「話す」「聞く」「書く」ことに苦手意識があり、英語の指導に積極的になれないことが多い。一方、小学校英語では、学級担任が中心となってALTの協力を得ながら授業を行うことが想定されるため、教員は英語4技能の中でも、特に「会話力」の向上が求められる。

そこで、小学校英語の教科化への対応として、マンツーマン語学研修に参加することにより、教員の「会話力」を短期間で飛躍的に向上させるとともに、現地小学校等の視察を行い、渡航先の現状を肌で感じる異文化や共生教育への理解を深めるための研修を実施した。

研修内容等

本研修では、フィリピンセブ医科大学付設のCDU ESLセンターにおいて一日6時間のマンツーマン授業、グループ授業2時間のカリキュラムを5日間行った。

必ず英語で話さなくてはいけない環境でコミュニケーションを行ったことで、自身の英語力が向上し、海外の人と会話をする楽しさや良さを感じることができた。



感想等

今までの私は、英語力に自信がなく、正しい表現ができなため、伝えることをためらってしまっていた。この研修を通して間違った表現でもコミュニケーションをしようと試みることで、異文化理解や人と関わる楽しさを実感できることがわかった。これは、現在の外国語活動にとってとても大切なことだと感じた。現在教えている子どもたちに、「読む・話す・聞く・書く」の4技能が身に付き、海外の人と関わる楽しさを実感できるように、今後も教師の英語力向上や外国語授業の改善をしていきたい。

今回の研修で、教師が異文化について知れたことで、子どもたちが日本と海外の違いに気づくことができる授業に改善することができた。

また、教員の英語力・授業力向上のために、打ち合わせでの5分間レッスンや若手教員の授業へのアドバイスをを行うなど、今後もこの研修で得たことを、子どもたちのためになるよう還元していきたい。

支援企業・団体一覧 (2016年4月～2020年3月)



● 公益財団法人 ●
はちろも教育研究奨励会

明産株式会社

一般社団法人

静岡県信用金庫協会



スルガ銀行

静岡県遊技業協同組合

国際ソロプチミスト駿河

Dream with you.



静岡銀行



Z-KAI Group



清水銀行



Kobayashi
富士から世界へ 小林製作所



清水埠頭株式会社



Shizuoka Information Processing Center
株式会社静岡情報処理センター



公益財団法人
日本教育公務員弘済会
静岡支部



田子の浦埠頭株式会社

Jatco



NTT西日本



Shizu
tetsu

街にいろどりを。人にときめきを。



清水コンテナターミナル
株式会社

沼津埠頭株式会社

クオオクイル 日興製薬株式会社

富士トラック株式会社

有限会社
メディカルアイカイ



百年住宅

pure natural
APPLE HOUSE

浜松バス株式会社



松葉倉庫
株式会社

静岡県高等学校長協会／静岡県高等学校等副校長・教頭会／静岡県公立高等学校事務職員協会
／学校関係団体（同窓会、後援会等）／ふじのくに応援寄附者（個人支援者）